

検査項目		解説【1】
身体計測	標準体重	身長(m)×身長(m)×22
	BMI	体重(Kg)÷身長(m)÷身長(m) BMIは肥満度の判定に用いられる体格指数です。
	肥満度	(体重－標準体重)÷標準体重×100
	腹囲	内臓脂肪をみる目安です。臓器の周りに脂肪が多くなるのが内臓脂肪型肥満です。このタイプの肥満は生活習慣病を起こすリスクが高くなります。内臓脂肪はたまりやすいですが、減量すれば比較的簡単に減らすことができます。測定は臍部(へそ)の高さでおこないます。
眼科	眼圧	眼球の内圧(硬さ)を表します。眼圧が上昇する病気に緑内障があります。
	眼底	高血圧・脂質異常症・糖尿病の血管への影響・動脈硬化の程度を知ることができます。また、眼底出血・網膜剥離などの眼疾患が見つかることがあります。
呼吸器	胸部X線検査	肺の病気の有無・心臓の大きさ・大血管の大きさを調べます。
	肺機能検査	肺活量などを測定することにより、呼吸器疾患(喘息・肺気腫・慢性閉塞性肺疾患など)の診断をします。
循環器	血圧	血圧は心臓が収縮又は拡張した時に血管壁にあたる血流の強さを表しています。循環器(心臓・血管)の異常の他、腎臓・内分泌・代謝系の異常を知る手がかりになります。
	心電図	心臓の電気的活動の様子をグラフの形として記録したもので、不整脈・心肥大・狭心症・心筋梗塞がないかを調べます。
胃部X線・内視鏡		食道・胃・十二指腸に異常がないかを調べます。
便潜血検査		消化管出血を調べる検査です。肉眼では分からない微量の出血を検出します。陽性の時は精密検査を受けてください。
聴力検査		難聴の有無や程度を調べる検査です。耳鳴りなどの自覚症状がある時は、耳鼻科を受診してください。
尿検査	尿PH	尿が酸性・アルカリ性のどちらに傾いているかを表します。
	尿蛋白	腎臓・尿管・膀胱・尿道・前立腺などに問題があると蛋白が尿中に漏れ出ることがあります。
	尿潜血	蛋白と同様に尿路や前立腺に問題があると尿中に血液成分が混じることがあります。
	ウロビリノーゲン	古い赤血球が分解されてできる物質で、肝臓に障害があると陽性になることがあります。
	尿糖	尿中の糖の有無を調べます。血糖値が高いときに増えることがあり、糖尿病の指標の一つです。
	沈渣	尿中の固形物を顕微鏡で調べます。腎臓・泌尿器疾患など様々な病気の診断の手がかりになります。
脂質	総コレステロール	細胞膜の構成やホルモン生成に不可欠ですが、多すぎると生活習慣病の原因となります。
	LDLコレステロール	過剰になると動脈硬化症の原因となります。組織コラーゲン・細胞・ホルモンなどを作る働きがあります。
	HDLコレステロール	血管の壁などに蓄積されたコレステロールを回収する働きがあります。
	中性脂肪	血液中の脂肪の一種で、基準値を超えると動脈硬化や心臓病・脳卒中のリスクが高まります。
糖代謝	空腹時血糖	一般に血糖として測定されているのはブドウ糖で、脳や筋肉のエネルギー源です。糖尿病の指標として用いられる検査です。
	HbA1c	血糖値(高血糖)の持続期間により変化します。糖尿病の治療指標の一つで、過去1～3ヶ月の平均血糖値を反映しています。
	インスリン	膵臓で分泌されるホルモンです。インスリン量を測定し、分泌能力を調べる検査で、糖尿病の診断において有効です。
腎機能	尿素窒素	腎機能障害の指標となります。腎機能が低下すると尿素窒素・クレアチンは上昇し、eGFR(糸球体濾過量)は低下します。尿素窒素は高蛋白食の摂取・発熱時・運動や脱水時に一過性に高くなることがあります。
	クレアチニン	
	eGFR	
痛風	尿酸	核酸構成成分であるプリン体が分解されてきた老廃物です。痛風や腎臓病、生活習慣病などの検査のために測定します。